

# 夏制服改正の取り組み

石 樽 悦 子

【抄録】 生徒会活動・委員会活動の一つの実践記録である。女子夏制服を改正するという大きな問題に対してどのように取り組んできたのかという一つのケースである。

【キーワード】 女子夏制服、制服改正、制服半自由化、委員会活動、夏制服改正の取り組み

## 1. はじめに

以前より女子の夏制服には生徒から不満の声があり、また、保護者の一部からも改正することに同意する声があった。そのことと生徒の自主的活動を重んじるわが校の校風で今回、女子の夏服を改正する運動が起こった。

## 2. 制服問題の過去の歴史

昭和30年…生徒・教官・保護者3者の合意で制服制定  
昭和45年…生徒会が制服・制帽を廃止の方向で取り上げる

昭和46年…制服自由化運動が起こる。

昭和49年…夏服改正委員会が発足。途中で生徒の支持が減少してふりだしに戻る。

昭和55年…再度夏服改正運動が起こる。しかし、翌年生徒の支持の急減で改正失敗に終わる。

## 3. 今回の夏制服改正の取り組み

(平成2年度)

平成2年5月

高校生徒会執行部が活動方針として女子夏服改正を取り上げる。また、中学生徒会も同時に女子夏服改正問題を取り上げる。

平成2年7月

女子夏服についてのアンケートを行う。アンケートの結果、改正が多数を占めた。また、現在(当時)の女子夏制服に対して次のような不満が多数出た。

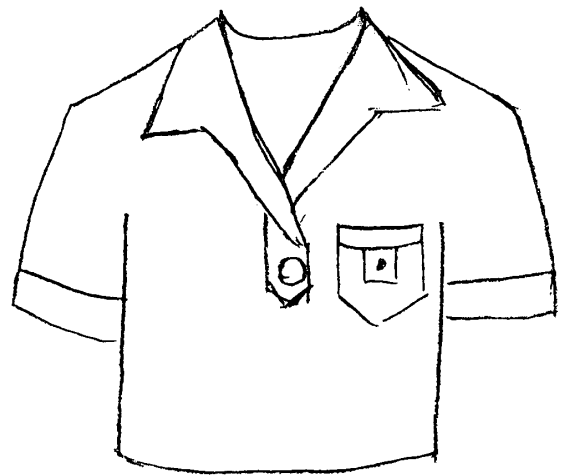
- ・脱いだり、着たりがしにくい。
- ・布が厚い。
- ・デザインが悪い。上から覗かれる。
- ・ボタンが割れやすい。

などが主な意見であった。

この不満がのちの新しい制服を考えるときの根幹になった。

(当時の夏制服)

図1



平成2年11月

中学・高校ともに女子夏服改正専門委員会を設立した。委員の数はともに10名であった。ここから3月までは中高合同で委員会が行われた。この段階で教官側も女子夏制服を改正することに賛成であり、生徒の活動を見守っていくことにしていた。

平成2年12月

新しい夏制服の要望調査におこなった。生地・色・ポケット・校章・すそ・襟・デザイン・機能など細部にわたり調査をした。

(調査結果)

- ・薄くて透けないもので、白を基準にする。
- ・リボンをつけ、ポケットは今と同じにする。
- ・裾を外にだし、前開きにする。
- ・襟、校章については意見が分かれた。

この調査結果がデザイン決定に大きな影響を与えた。調査結果を発表後に、夏制服のデザインを一般の生徒から募集をした。この時は上衣のみであった。

平成3年1月

応募された生徒のデザインについてアンケートをとったが、意見がわかれた。このときに、委員会では規定内での制服の自由化(半自由化)の案が考え出された。そして、討論会を開いて半自由化についての意見を委員だけでなく、一般の生徒からも聞いた。また、中学生徒議会・高校生徒協議会では生徒総会を開いて女子夏制服の半自由化について生徒全体の意向を確かめる議決をした。

平成3年2月

中学・高校別々に生徒総会が開かれた。中学は女子夏制服についてはデザインを決めた方がいいという人の方が若干多かった。高校は半自由化したほうがよいという人が圧倒的に多かった。この結果を踏まえて、中高合同委員会で議論し、最終的に女子夏制服を半自由化にすることを生徒の意思と決定した。

平成3年3月

生徒の「女子夏制服を半自由化にする」という決定を受けて教官会議でこの件が議論された。結果は高校…半自由化を承認する。

中学…制服のデザインを改正する。

別々の方向に決定した。

(平成3年度)

ここからは中学と高校の動きが違うので別々に述べる。最初に中学を、後で高校の動きを述べる。

<中学>

平成3年4月

1年生に制服問題を委員から説明する。アンケートを実施して、デザイン改正か半自由化かを意向調査した。その結果からデザイン改正に決定してその方向で進み始める。また、新しい委員を公募した。

平成3年5月

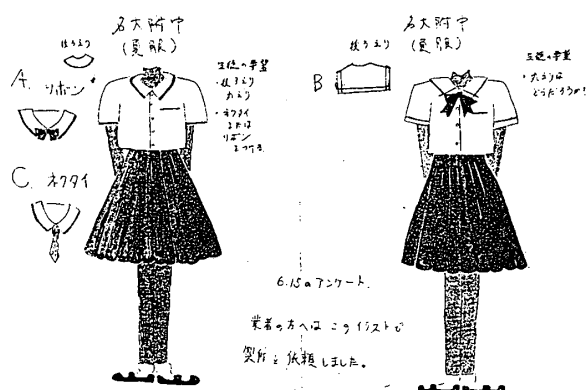
前からの委員6人に加え、新しい委員6人を迎えて女子夏服改正委員会が発足した。生地・デザインなどについて、業者の人から基本的な事を生徒の委員たちが学んだ。改正委員会から3つのデザインが提示され、生徒たちの賛否と修正箇所が指摘がアンケートで行われた。

平成3年6月

襟の形について、再度アンケートを行われた。中旬頃に改正委員会から最終案のデザイン3点が示された。この3点のアンケートで67%支持を得た。

この3点のうち、A、B2点で業者3社(うち百貨店2社)に教師から試作品作製を依頼した。3社のうち、2社は以前から本校に入っていた。また、百貨店2社の学生制服ファッションショーも2名の教師が見学した。

図2



平成3年7月

業者3社から試作品が約2週間後に届いた。第1回中学夏服小委員会(拡大委員会)を開いた。構成員は保護者5名・教師4名・生徒(改正委員)2名であった。

\*内容

1. デザイン・デザイナーについて
2. 今後の日程について

夏休み中に第2回中学夏服小委員会(拡大委員会)を開いた。(7月23日)

\*内容

1. スカートの取扱いについて  
場合によってはスカートも改正する。
2. 従来の2社に加えて、新しく1社加えることについて

2日後、業者3社を加えて、第3回中学夏服小委員会(拡大委員会)を開いた。(7月25日)

\*内容

1. 各社のオリジナルデザインを見せてもらい、説明をうける。
2. 価格、日程、3社になることについての考えなどの質疑応答

このときに、学校としてのコンセプトが大事であることを強調された。学校の校風・カラー・方針などがしっかり認識されていることが必要である。同日、生徒だけの夏服改正委員会が午後が開かれた。アンケートの結果を基にして、生徒の要望書をまとめた。その要望書を持って、百貨店2社を教師1名(石樽)、生徒2名(三宅、松田)で訪れた。そこで、デザイナーや売場担当者に会って話し合い、再度、試作品を作製するようお願いした。

平成3年8月

特に動きなし。

平成3年9月

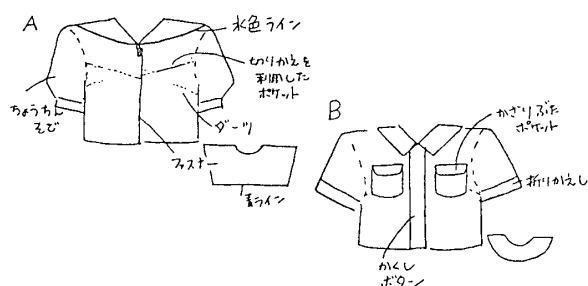
## 夏制服改正の取り組み

19日に百貨店2社から試作品が到着した。26日に文化祭の2日目で中学女子夏服ファッションショーを行った。(生徒たちの手で企画運営)ファッションショー後、アンケートを実施した。

平成3年10月

改正委員会から中学夏服小委員会の関係教師にアンケートの結果から得られた事柄が報告された。中学夏服小委員会(生徒と欠席した一部の保護者を除く)が行われ、最終候補としてある百貨店(従来から本校に入っている業者)の2点A、Bに絞られた。保護者会で候補になった2点A、Bを展示して、保護者に公開した。ところが、中2の保護者を中心としてクレームがでてきた。

図3



平成3年11月

初めて教師によるアンケートが行われた。14日に中学夏服小委員会(拡大委員会)が開かれた。

\*内容

1. 最終候補2点A、Bの保護者会で展示とその反応
2. 教師によるアンケート結果
3. 質疑応答  
(生徒から多くの質問及び意見が出た)

後日、生徒によるアンケートが行われた。3年生は1年繰り越して直した方がいいという意見が多かったが、1年生2年生はA、Bどちらでもいいという意見が多かった。最終的に教官会議でBに決定した。

平成3年12月

業者へ細部の変更点の要望書を渡した。

\*内容

1. 襟回り・リボン
2. ポケット・校章の刺しゅう
3. 縁取りのライン

このうち、リボンは無くなし、ラインも入れることができなくなった。

平成4年1月

細部修正がされた女子夏服の試作品が出来上がった。

〈高校〉

平成3年4月

半自由化案が生徒に支持された。半自由化の細部が生徒の改正委員会で検討され、まとめられた。

\*内容

- ・白上衣
- ・襟、袖有り
- ・無地
- ・ポケット可、ワンポイント不可
- ・高校生らしく華美でないもの
- ・スカートは現在のものを着用

この案で各クラスで話し合ってもらい、採決した結果、賛成228、不支持83、保留63となった。

生徒協議会でも審議され、賛成14、反対0、保留1となって、この案が生徒案となった。ただし、ワンポイント不可については多くの不満が残っていた。また、不支持の理由の大半がこのワンポイント不可であった。この「ワンポイント不可」という項目をつくった理由は高価なブランド品が流行するのを食い止めるために入れたものであった。多くのブランドのポロシャツにはワンポイントのマークが入っている。

平成3年5月

教官会議で前記の生徒案は支持されなかった。おもな理由は以下の通りだった。

- ・日頃のだらしなさから考えられる制服のないときのデメリット。
- ・ポロシャツは許可しない。
- ・いいデザインで作直した方がいい。
- ・完全な自由化か制服のほうがいい。  
(中途半端)

- ・クラスでの採決が担任の意見で左右されている。
- ・クラスで十分に討議されていないので、各個人がしっかり理解しているとは思えない。

この結果を受けて、生徒たちは再度クラスで話し合い、採決した。前回よりは不支持と保留が減り、生徒たちが半自由化を強く望んでいることが分かった。そこで、もう一度教官会議で生徒案を審議した。2つの条件付きで生徒案が支持された。

- ・1年だけの試行期間である。
- ・秋に見直し、着用の様子では元の夏服に戻すこともありうる。

平成3年6月

女子夏服上衣は生徒案で半自由化が実施された。しかし、問題点が多く発生した。

\*問題点

- ・他校の制服を着てくる。
- ・校章を付ける布でワンポイントマークを隠して

いる。

- ・ポロシャツのすそをスカートの外に出し、だらしない格好をしている。(着方の問題)
- ・男子生徒のなかにポロシャツを着てくるものが現れた。(男子夏制服は白の開襟シャツまたはカッターシャツ、黒長ズボン)

この問題点に対して女子夏服改正委員会は何も手を打たなかった。逆に委員のなかにも違反している者もいる状態であった。生徒会執行部、生徒協議会も文化祭準備で忙しく、この問題点に対処できなかった。

平成3年7月～9月

●文化祭準備等で忙しく、女子夏服に対しては動きはなかった。

平成3年10月

改正委員会で半自由化実施後のアンケートが行われた。アンケートの結果は次のようである。

- ・ほぼ守れたが、一部守られていない人がいた。
- ・ワンポイントと校章について守られていない。
- ・守っていない人に注意ができなかった。
- ・困ったことはほぼなかった。
- ・改正について家庭は賛成でも反対でもない。
- ・できたら、他の形の改正がよかった。
- ・来年以降は中学と同じにするか全く新しいものを作る方がいい。

第1期女子夏服改正委員会はこのアンケートで解散した。新しく公募により各クラス(3年生を除く)より2名ずつ委員が決まり、改正運動じたいは継続されて行った。

平成3年11月～12月

教官会議で来年の高校生の夏服について問題になった。中高一貫の考えから中学の新制服と合わせてはという意見が出た。最終的に中学の新制服と同じ型で校章の刺繍だけ高校用に変えたものを来年の夏服と教師側で決定した。

平成4年1月

●女子夏服改正委員会の在り方が生徒会執行部で問題になった。生徒会会則の違反でないかということであったが、現在存在していることと改正運動を継続して行くことでこのことは不問に付した。

(平成4年度)

平成4年4月

1年生に今までの改正運動の経過を説明して、1年生の各クラスから委員を2名以上公募した。そして、現在も委員会は継続中である。

#### 4. 今回の運動の良かった点、反省点と今後の方向

##### \*良かった点

1. 改正運動が長く継続できたこと。  
中学で2年間、高校では足掛け3年目に入っている。途中で委員は交替しているが、半数は残留して後輩指導に当たっていた。また、教も生徒の女子夏服改正に対して応援していた。保護者もこの改正運動に対して理解して、つねに、生徒の側に立って支援していた。
2. 男子生徒が女子夏服改正に関わっていたこと。  
この改正問題の最初のきっかけは当時の高校生徒会の執行委員長(男子生徒)が執行部の活動方針の中へこの問題を入れたことであった。また、改正委員会の中につねに男子生徒が入っていて貴重なアドバイスをしていた。重要なアンケートでは男子生徒も一緒に真面目に答えていた。
3. 生徒の自主的な活動ができたこと。  
委員会を開くことでも、アンケートを実施することについても生徒たち自身が自主的に行った。教師はアドバイザーに徹していた。

##### \*反省点

1. 制服に対する統一した考えが無かった。  
どうして、現在の制服が必要なのか、新しい制服をどういう考えで作るのか、学校の校風や方針をどの様に制服に反映させるかなどを教師が生徒より先に統一して持っているほうが良かった。
2. 時間につねに追われていた。  
夏服の作製を始める時期に合わなくてはいけないので事前に確認をしてから日程を考えるほうが良かった。会議の日程や委員会の進み具合などに気をつけて進める必要があった。
3. 渉外関係に神経をつかった。  
まず、誰が業者と対応するのか確認しておく事が大事である。また、業者に自分たちの要求を適確に伝える方法を考えておくのが良かった。業者のいいなりになりやすいので要注意である。

##### \*今後の方向

〈中学〉

平成4年6月から女子夏制服は新1年生から新制服に変更される。2年生3年生も新しく購入するときには新制服になる。

〈高校〉

現在も改正委員会は活躍中である。とりあえずは、中学生と同じ新制服を着るが、将来的にそのま

ま着つづけるのか確定していない。委員会の活動結果によっては、また変更になり得る。

## 5. 最後に

この文章をまとめるにあたって、中学女子夏服改正委員会（代表：三宅りつ子）が平成4年2月に発行した「Girls夏服改正へ向けて」を参考にさせていただいた。ここに深く感謝したい。また、本文中の図についても中高夏服改正委員会がアンケートなどで使ったものを転載させていただいた。

### 新女子夏制服

図4

